



**Kodak**

## i1100 シリーズスキャナー

TWAIN アプリケーション用  
スキャンセットアップガイド

# TWAIN データソースのスキャンセットアップガイド

---

SVT / Scan Validation Tool を使用する .....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス .....	3
TWAIN データソースの使用 .....	4
開始方法 .....	4
イメージ設定の変更 .....	5
デバイス設定の変更 .....	6
スキャナーメインウィンドウ .....	7
イメージ設定ウィンドウ .....	10
プレビューウィンドウ .....	12
[一般] タブ .....	13
[サイズ] タブ .....	17
[調整] タブ : 白黒 .....	18
[調整] タブ : カラー / グレースケール .....	20
[拡張機能] タブ .....	22
[検出] タブ .....	24
イメージの詳細設定 .....	26
[詳細] タブ .....	26
[原稿内容の設定] タブ .....	29
原稿の色量を基にカラー / グレースケールと 白黒スキャンを切替え .....	31
書類の各面に対して複数イメージを作成 .....	33
両面にそれぞれ異なる設定を使用 .....	35
新しい設定のショートカットの作成 .....	36
イメージ設定の変更 .....	38
デバイス設定ウィンドウ .....	39
デバイス - [一般] タブ .....	40
デバイス - [トランスポート] タブ .....	41
デバイス - [重送検知] タブ .....	42
デバイス設定の変更 .....	44
診断ウィンドウ .....	45
診断 - [一般] タブ .....	45
診断 - [デバッグ] タブ .....	46
診断 - [ログ] タブ .....	47

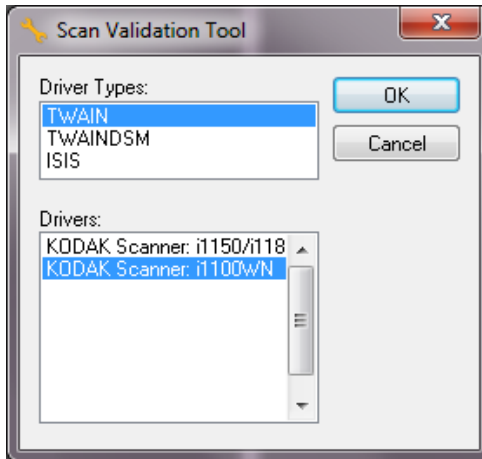
Kodak i1100 シリーズスキャナーではイメージ処理機能により高い画質のスキャン画像を取得できます。本ガイドは次のスキャナーモデルを対象としています : Kodak i1150/i1150WN/i1180/i1190/i1190E/i1190WN。特に断りのない限り手順はすべてのスキャナーで同じです。

イメージ処理とは、イメージ毎に給紙の傾き調整や枠消し、イメージのノイズ除去など、スキャン画像の品質を自動的に向上する機能のことです。

本ガイドは TWAIN/TWAINDSM データソースの使用手順や機能について説明します。使用しているスキャンアプリケーション（コダックキャプチャ ソフトウェアなど）のユーザインターフェースでも同じ機能が利用可能です。

## SVT Diagnostics/ Scan Validation Tool の起動

1. [ スタート ]>[ プログラム ]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。[ ドライバの選択 ] ウィンドウが表示されます。



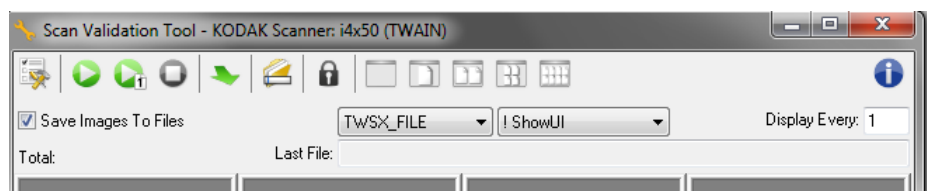
2. [ ドライバの種類 ] で [TWAIN/TWAINDSM]（または [ISIS]）を選択し、[ ドライバ ] で [Kodak Scanner i1100] を選択します。

ドライバの種類：

- **TWAIN** — Windows が提供する twain\_32.dll から TWAIN インターフェースを使用します。このオプションは、Windows フォルダに twain\_32.dll がある場合のみ利用できます。
- **TWAINDSM** — TWAIN ワーキンググループの 2.x データソース管理 (DSM) から TWAIN インターフェースを使用します。このオプションは、Windows システムフォルダに TWAINDSM.dll がある場合のみ利用できます。
- **ISIS** — ISIS ドライバのインターフェースを使用します。このオプションは、Windows 32 ビットシステムフォルダに PIXDFLTN.DLL がある場合のみ利用できます。

注：TWAIN データソースおよび ISIS ドライバは、Scan Validation Tool の 64 ビットバージョンでは利用できません。

3. [Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



## [Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) は Kodak Alaris が提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool では、TWAIN/TWAINDSM データソースや ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



### [ ツールバー ] ボタン



**セットアップ** — 選択されたドライバ用のユーザインターフェースを表示します。



**スキャン開始** — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



**1 ページスキャン** — 1 枚だけスキャンします。



**スキャン停止** — スキャンを終了します。



**ドライバの変更 / 開始** — 現在開いているドライバを閉じて、[ ドライバ選択 ] ウィンドウを表示します。



**保存先** — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[ イメージをファイルに保存 ] を選択した場合のみ利用できます。



**ライセンスキー** — [ ライセンスキー ] ウィンドウを表示します。



**表示モード (画像なし)** — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



**表示モード (1 画像)** — 一回に 1 枚のイメージを表示します。



**表示モード (2 画像)** — 一回に 2 枚のイメージを表示します。



**表示モード (4 画像)** — 一回に 4 枚のイメージを表示します。



**表示モード (8 画像)** — 一回に 8 枚のイメージを表示します。



**詳細** — [ 詳細 ] ウィンドウを表示します。

## TWAIN データソースの使用

Kodak i1100 シリーズスキャナーは、さまざまな電子イメージを提供できます。ご使用のスキャンアプリケーションから Kodak Alaris 提供の TWAIN データソースを使用することで様々なイメージを出力します。TWAIN データソースはスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、スキャナーメインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。

ISIS ドライバを使用している場合は、*ISIS ドライバ用スキャンセットアップガイド* を参照してください。

## 開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することです。スキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、**[OK] / [スキャン]** を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [設定のショートカット] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

オプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定** : スキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能]、[検出] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定できます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブや [重送検知] タブが表示されます。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

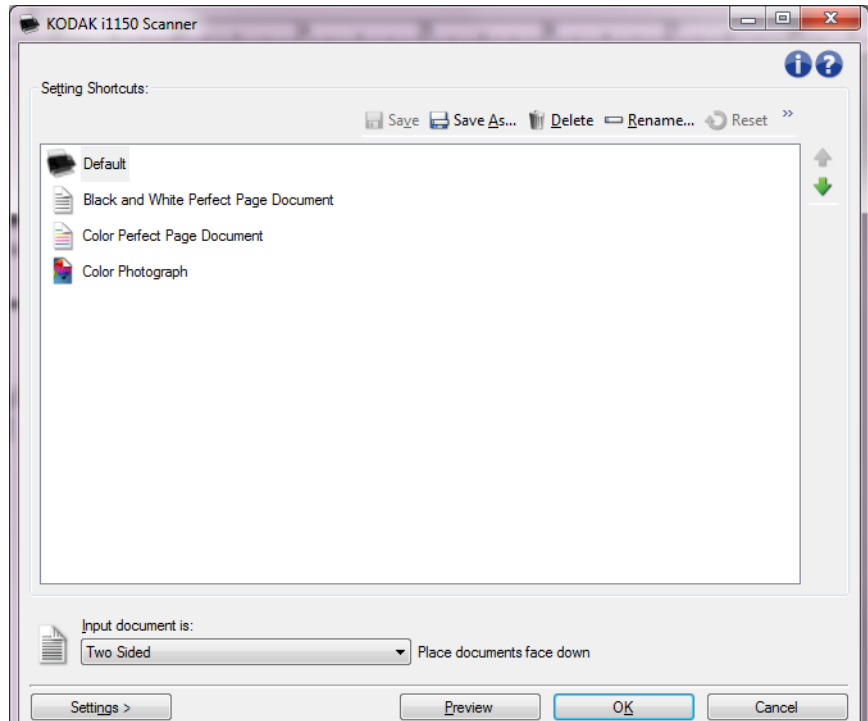
以降の手順は、設定のショートカット方法について説明しています。スキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注 : 設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。この場合、そのショートカット名がスキャナーメインウィンドウに斜体で表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションでこのような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを行ってください。

## イメージ設定の変更

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。

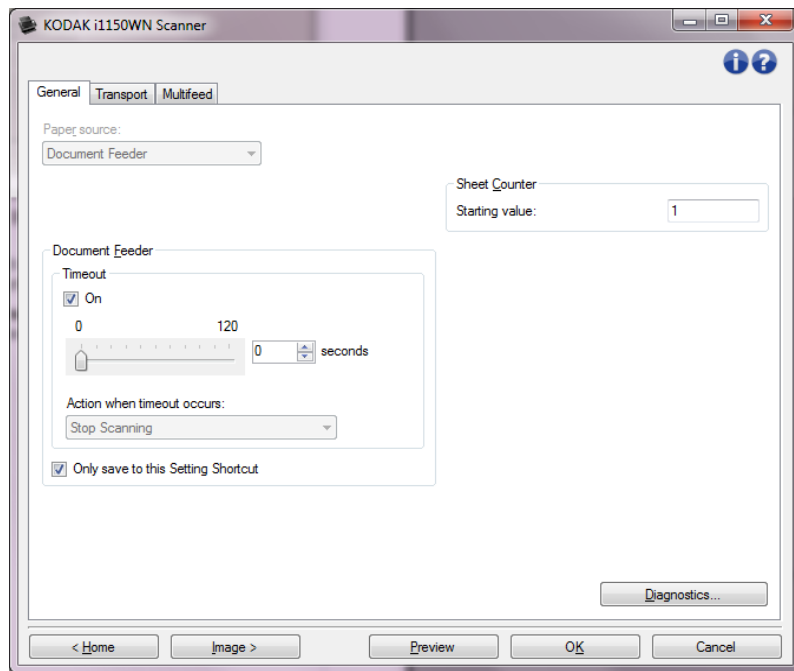


1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、[入力ドキュメントのタイプ] を選択します。
3. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
4. 調整を行う前に、イメージ設定ウィンドウのタブから、利用可能なオプションを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. オプションにどのような効果があるのかを確認する場合は、次の操作を実行します。
  - スキャナーの入力トレイに原稿を 1 枚セットします。
  - [プレビュー] を選択して、プレビュースキャンを実行します。

注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを選択するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブを調整します。必要に応じてこの手順を繰り返します。
7. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

## デバイス設定の変更

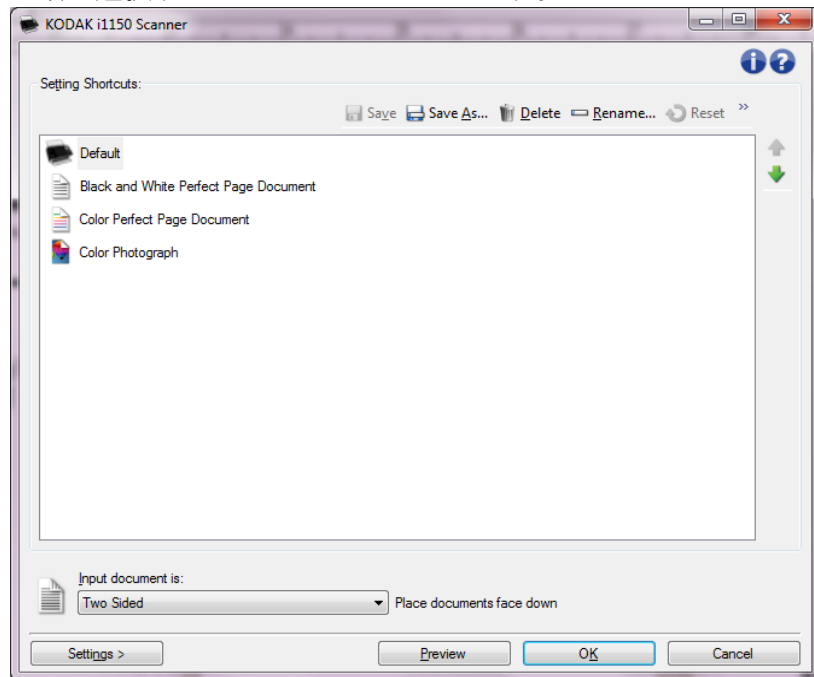
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の【設定のショートカット】を選択します。
2. 【設定】を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. 【デバイス】を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 調整を行う前に、デバイス設定ウィンドウのタブをクリックして、利用可能な機能を確認します。各機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. 適切なタブを選択し、スキャン時に使用する機能を決定します。
6. 各タブで、スキャナーが実行するオプションやアクションを選択します。
7. 設定が完了したら、【ホーム】を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、【保存】をクリックし【ショートカット】への設定内容を保存します。

## スキャナーメイン ウィンドウ

スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインターフェースのホームウィンドウです。[ 設定のショートカット ]、[ OK ] / [ スキャン ] の順に選択するだけでスキャンできます。



**[ 設定のショートカット ]** — 現在設定されているショートカットが一覧表示されます。以下のショートカットが用意されています。

- デフォルト — スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ
- カラーパーフェクトページ
- カラー写真

[ 設定のショートカット ] を変更してその変更を保存していない場合、[ 設定のショートカット ] に < 変更済み > というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：\* カラー写真 < 変更済み >）。



**入力ドキュメントのタイプ** — 原稿のいずれの面のイメージを出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：

- スキャンする原稿は表面を下向きにして入力トレイにセットしてください。
- **【両面】** および **【片面 - 裏】** オプションは、両面对応モデルのみ利用できます。

**保存** — 現在の [ 設定のショートカット ] に対して行った変更を保存します。これはユーザーが作成したショートカットに対して使用できます。

**名前を付けて保存** — [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [ 設定のショートカット ] として保存します。

**削除** — 選択した [ 設定のショートカット ] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザーが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

**名前の変更** — [ 設定のショートカット ] の名前を変更できる [ 名前の変更 ] ウィンドウを表示します。これはユーザーが作成したショートカットに対して使用できます。

**リセット** — 選択した [ 設定のショートカット ] への変更を元に戻します。これはユーザーが変更したショートカットに対して使用できます（例：名前に斜体で < 変更済み > と表示）。

**復元** — [ 復元 ] ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻します。これは予め用意されたショートカットが変更または削除された場合に使用できます。

**インポート** — [ 設定のショートカット ] のセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、確認メッセージが表示され、[ ファイルを開く ] ウィンドウからインポートするショートカットセットを選択できます。

**エクスポート** — 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、[ ファイルの保存 ] ウィンドウが表示され、フォルダとショートカットセットのファイル名を選択できます。

**上に移動** — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

**下に移動** — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

注：

- 別の PC に **設定のショートカット** を転送する場合：転送したいショートカットがある PC から、**[エクスポート]** を選択し、別の PC から **[インポート]** を選択します。
- 現在のショートカットセットに **[設定のショートカット]** を追加する場合：1) **[インポート]** を選択してショートカットセットをロードします。2) 新しい **[設定のショートカット]** を作成します。3) **[エクスポート]** を選択してショートカットセットを置き換え、同じ名前で保存します。

**設定** — **[イメージ設定]** ウィンドウで、選択した **[設定のショートカット]** を変更できます。このウィンドウから、デバイス設定や診断ウィンドウにもアクセスできます。

**プレビュー** — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

## 情報アイコン



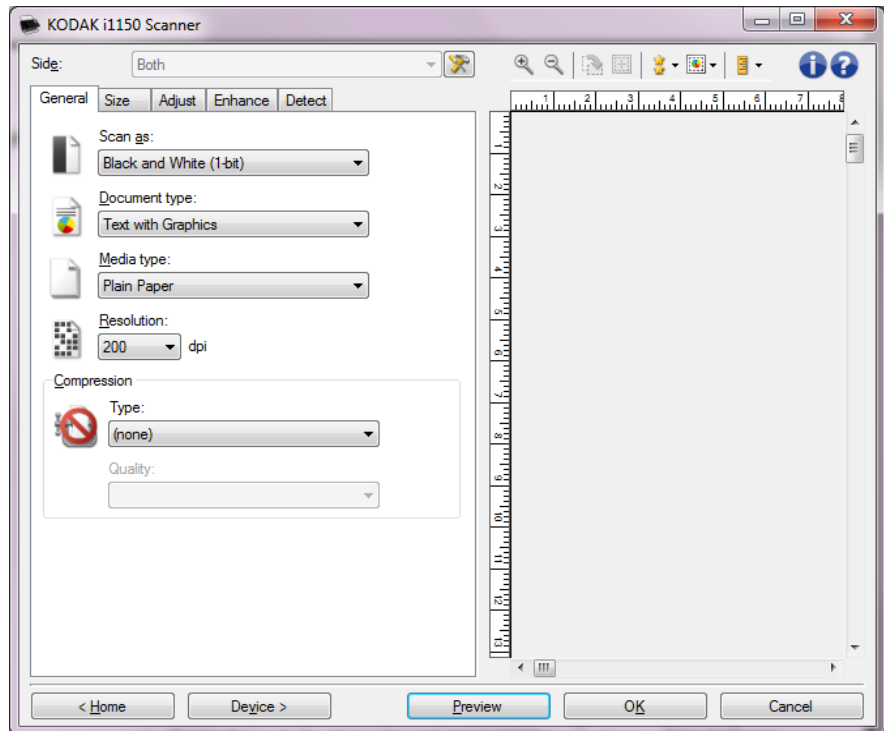
**バージョン情報**：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



**ヘルプ**：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

## イメージ設定 ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには[一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能]、[検出]のタブがあります。



**読み取り面** — 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。








注：

- [読み取り面] オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。
- [両面] および [裏面] オプションは、両面对応モデルのみ利用できます。



**イメージの詳細設定**：[詳細] タブを表示します。

## [ ツールバー ] ボタン

	<b>ズームイン</b> ：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを拡大します。
	<b>ズームアウト</b> ：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。
	<b>アウトラインを回転</b> ：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。
	<b>アウトラインを中央に配置</b> ：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。
	<b>プレビューの品質</b> ：スキャンされた画像の品質を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>標準</b>：イメージを低解像度で表示します。</li> <li>• <b>高</b>：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、プレビューウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。</li> </ul> 注：原稿の内容に応じて、イメージが実際に近い表示ができるよう、拡大表示が必要な場合があります。
	<b>自動プレビュー更新</b> ：表示されるイメージの更新方法を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[オン]</b>：設定変更の結果を自動で反映して表示されます。ほとんどの場合、原稿を再スキャンする必要はありません。再スキャンが必要な場合は、原稿を再スキャンするようにメッセージが表示されます。</li> <li>• <b>[オフ]</b>：再度プレビュースキャンを実行するまで表示されるイメージは更新されません。</li> </ul>
	<b>単位</b> ：スキャナーの測定値の単位を選択します。これはプレビューエリアとサイズ関連オプションが含まれます。[単位]オプションは[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル]が使用できます。

## プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

- **アウトライン**：[ **原稿**：マニユアル指定 ] または [ **イメージ**：ドキュメントの一部 ] を [ **サイズ** ] タブから選択すると、現在の [ **アウトライン** ] 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。

- **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。

**ホーム** — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**デバイス** — [ デバイス設定 ] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

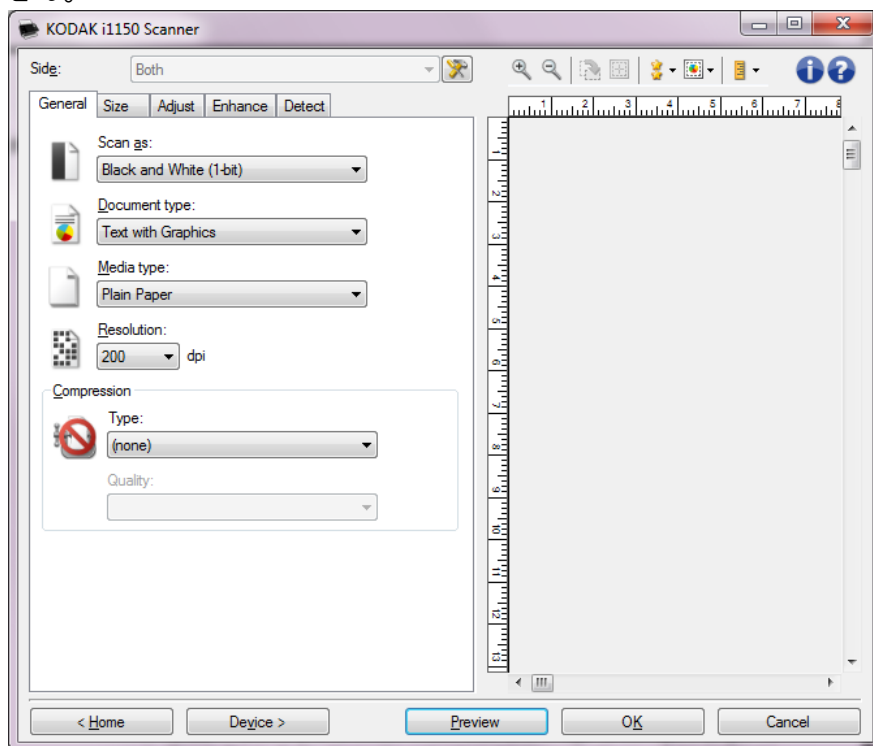
**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが [ **OK** ] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

## [一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが用意されています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



**スキャン形式** — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 bit)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン形式] オプションは、[詳細] タブの [読取り面あたりのイメージ数] で [1] が選択されている場合のみ使用できます。

**ドキュメントのタイプ** — 原稿のタイプを選択します。

- **文字と図形** : 文書、グラフィック (棒グラフ、円グラフなど)、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト** : 文字原稿の場合に選択します。
- **写真** : 写真が主体の場合に選択します。

**書類のタイプ** — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌が選択できます。

**解像度** — 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン速度やイメージサイズにも影響します。解像度は [100]、[150]、[200]、[240]、[250]、[300]、[400]、[500]、[600]、[1200] dpi が選択できます。

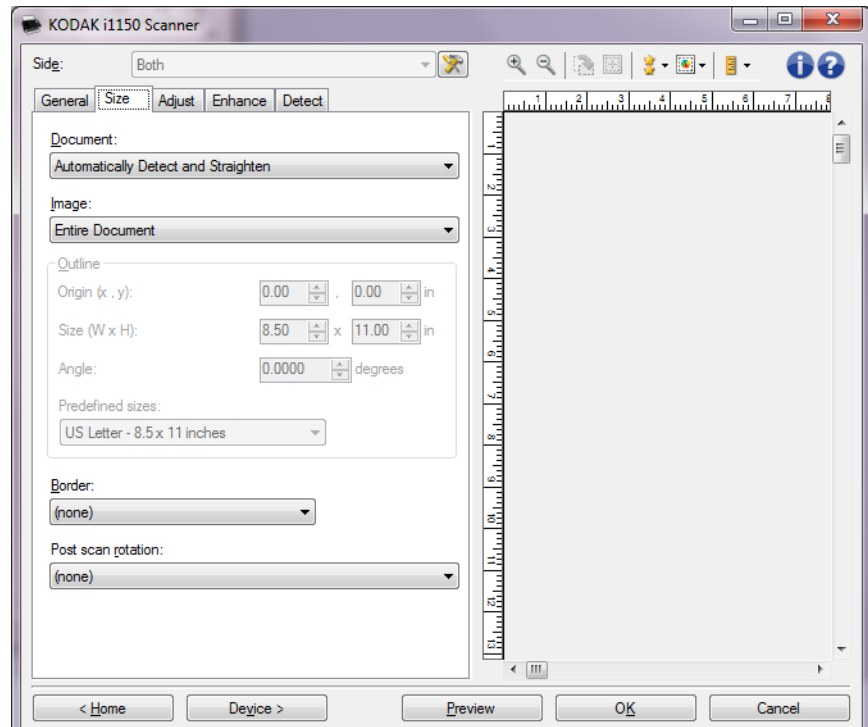
注 : このオプションは **プレビュー 品質が標準** に設定されている場合は適用されません。

**圧縮** — イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ** : カラーイメージを生成します。
  - **(なし)** : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
  - **グループ -4** : 白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
  - **JPEG** : JPEG 技術を使って、カラー／グレースケールイメージを圧縮します。  
注 : [グループ -4] オプションは、[スキャン形式] から [白黒(1 ビット)] を選択した場合のみ使用できます。
- **品質** — JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。このオプションはプレビューイメージには適用されません。
  - **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
  - **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
  - **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
  - **最高** : 小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
  - **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

## [サイズ] タブ

[サイズ] タブでは、イメージ出力に関する値を定義できます（クロッピング値、用紙サイズなど）。



**原稿** — スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知 / 傾き修正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定**：[ アウトライン ] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズ of 原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

**イメージ** — キュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **ドキュメント全体**：[ 原稿：自動検知 / 傾き修正 ]、[ 原稿：自動サイズ検知 ]、または [ ドキュメント：マニュアル選択 ] を選択すると、ドキュメント全体を返します。
- **ドキュメントの一部**：[ 原稿：自動検知 / 傾き修正 ] を選択すると、アウトラインオプションで指定する原稿の一部を捕捉します。



**アウトライン** — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。  
プレビューエリアにアウトラインが表示されます。

• **原点 (x, y) :**

- **[ 原稿 : 自動検知 / 傾き修正 ]** を選択すると、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
- **[ 原稿 : マニュアル指定 ]** を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅 x 高さ) :** **[ 原稿 : 自動検知 / 傾き修正 ]** または **[ 原稿 : マニュアル指定 ]** を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注 : アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **角度 :** アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ :** 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、**[ カスタム ]** が表示されます。

注 : マウスを使用してプレビューエリアに表示されるアウトラインを調整することもできます。

**外枠** — イメージ端の処理を選択できます。

• **(なし)**

• **追加 :** イメージの 4 辺に約 0.254 cm (0.1 インチ) の黒枠が追加されます。

注 : このオプションは、**[ 原稿 : 自動検知および [ 原稿 : マニュアル指定 ]** では使用できません。

• **削除 :** 外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠はドキュメントの端のばらつきによって発生します。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や斜めに搬送された場合などです。

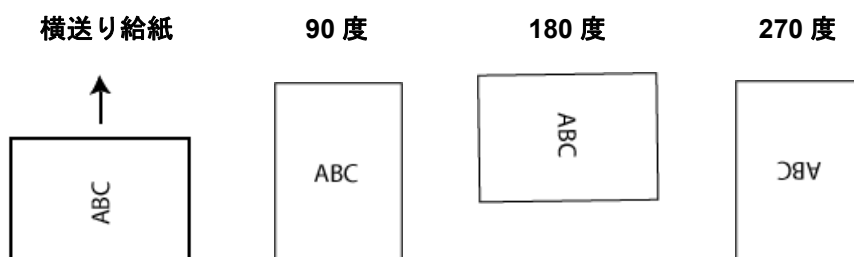
注 :

- このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは **[ 原稿 : [ 自動サイズ検知 / 傾き補正 ] および [ イメージ : ドキュメント全体 ]** が選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転 — スキャン後にイメージに適用回転角度を選択できます。

- (なし)
- 自動：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを正像に回転します。
- 自動 - デフォルト値 90 度：スキャナーが原稿毎に内容を分析して、イメージを正像に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
- 自動 - デフォルト値 180 度：スキャナーが原稿毎に内容を分析して、イメージを正像に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
- 自動 - デフォルト値 270 度：スキャナーが原稿毎に内容を分析して、イメージを正像に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。
- 90、180、270 度：回転する角度を指定します。

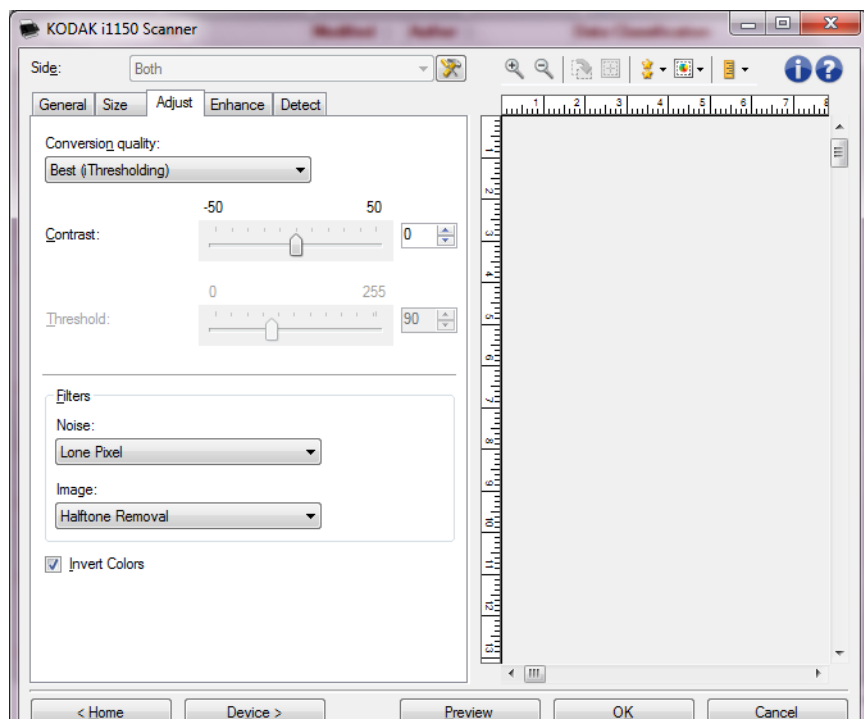
以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



注：このオプションはプレビューイメージには適用されません。

## [調整] タブ : 白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] から [白黒] を選択した場合に使用できます。



**変換品質** — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 (iThresholding)** : 高品質のイメージを生成するために、書類を自動的に識別して、最適なしきい値（スレッシュホールド）が決定されます。このオプションでは、画質が異なる混在書類（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）をスキャンできます。
- **通常 (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、[最高] 選択時に目標とする画質の [コントラスト] 設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にも使用できます。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのスレッシュホールドを選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

**コントラスト** — イメージを鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがソフトになり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの設定範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は0です。

注：[ **変換時の品質：最高** ] と [ **変換時の品質：標準** ] 選択時に使用できません。

**スレッシュホールド** — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1ビット/ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションは、0 ～ 255 の値が設定できます。デフォルトは90です。

注：[ **変換時の品質：最高** ] と [ **変換時の品質：標準** ] 選択時に使用できません。

## フィルタ

### • ノイズ

- （なし）
- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

### • イメージ

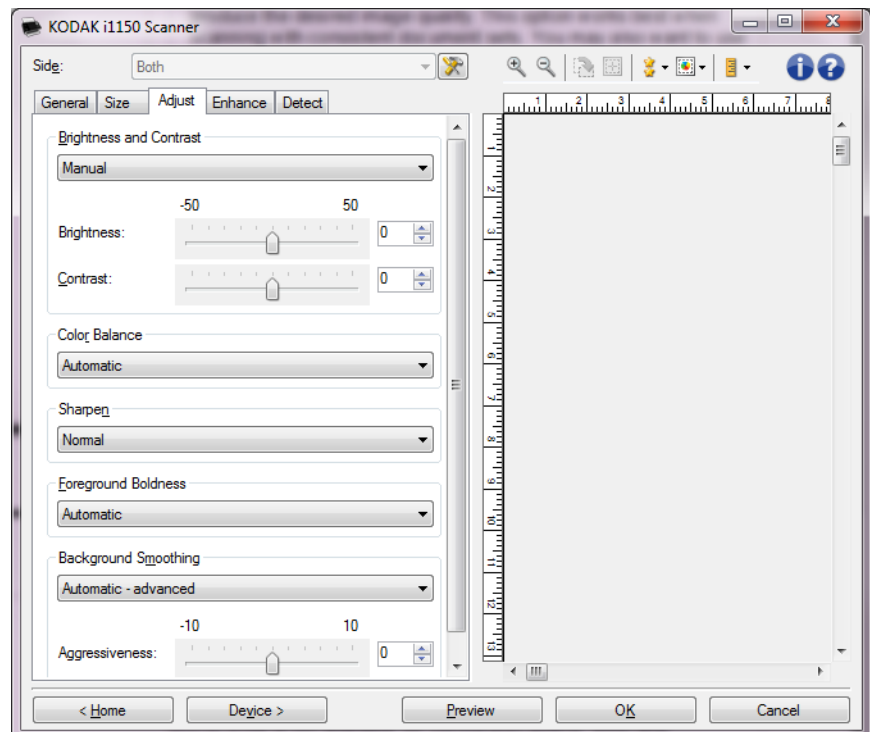
- （なし）
- **ハーフトーン除去**：ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

**反転** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

## [調整] タブ：カラー／グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] から [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に使用できます。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



### 明度とコントラスト

- (なし)
- 自動：各イメージを自動的に調整します。
- 手動：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - 明度 - カラー/グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
  - コントラスト - イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は **-50 ~ 50** です。

## カラーバランス

- (なし)
- **自動**：各原稿の白背景を真白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。写真への使用はお勧めしません。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は **-2 ~ 2** です。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。値の範囲は **-50 ~ 50** です。
  - **赤** - カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。
  - **緑** - カラーイメージ中の緑色のレベルを調整します。
  - **青** - カラーイメージ中の青色のレベルを調整します。

注：カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

**シャープネス** — イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- (なし)
- **標準**
- **高**
- **強調**

**前景強調** — 文書やフォームの前景（文字、行など）を強調する場合、このオプションを使用します。

- (なし)
- **自動**：文字や線がすべて太くなります。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定する場合に使用します。
  - **強度** - 前景強調の強弱を調整します。値の範囲は、**-10** から **10** です。

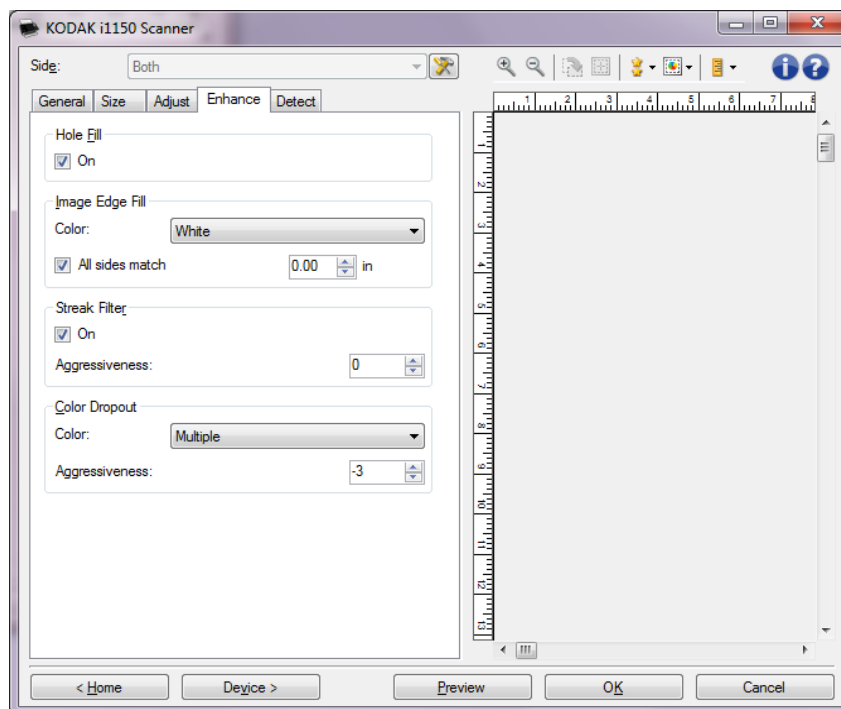
**背景のスモーキング** — 背景色のある原稿やフォームでこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし)
- **自動**：背景色を 3 色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** - 背景色スモーキングの強弱を調整します。値の範囲は **-10 ~ 10** です。

## [ 拡張機能 ] タブ

[ 拡張機能 ] タブのオプションは、[ 一般 ] タブの [ スキャン形式 ] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。すべての設定が画面に収まりきれない場合、設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



**パンチ穴除去** — 原稿の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、円、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際に発生した多少の裂け目など）。オンにするとパンチ穴除去機能が有効になります。

**イメージの端を埋める** — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

### • [ カラー ] :

- (なし)
- 自動：イメージの端が周囲の色で自動的に埋められます。
- 自動 - 破れを含める：イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補完されます。
- 白：イメージの端を白で埋めます。
- 黒：イメージの端を黒で埋めます。

- ・ **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。このオプションは**白黒**の場合のみ使用できます。
- ・ **上**：上端を埋める量を決定します。
- ・ **左／右**：左右の端を埋める量を決定します。
- ・ **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- ・ **[上]**、**[左／右]**、**[下]**の各オプションは、**[フレーム設定]**が有効になっている場合は使用できません。
- ・ **イメージ端埋め**を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。
- ・ このオプションはプレビューイメージには適用されません。

**縦縞フィルタ** — イメージから縦縞を除去するように設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿の汚れ（塵やホコリ、擦り切れた端など）が原因で発生するか、推奨の清掃手順に従わないために発生する場合があります。

- ・ **[オン]**：縦縞フィルタ機能を使用します。
- ・ **強度**：縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は **-2 ～ 2** です。デフォルト値は 0 です。

**カラードロップアウト** — 記入用紙の背景色を消去して、記入された情報のみをイメージとして保存します（記入用紙の罫線やボックスなどを消去します）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージは、設定に影響を受けます。

**カラー**

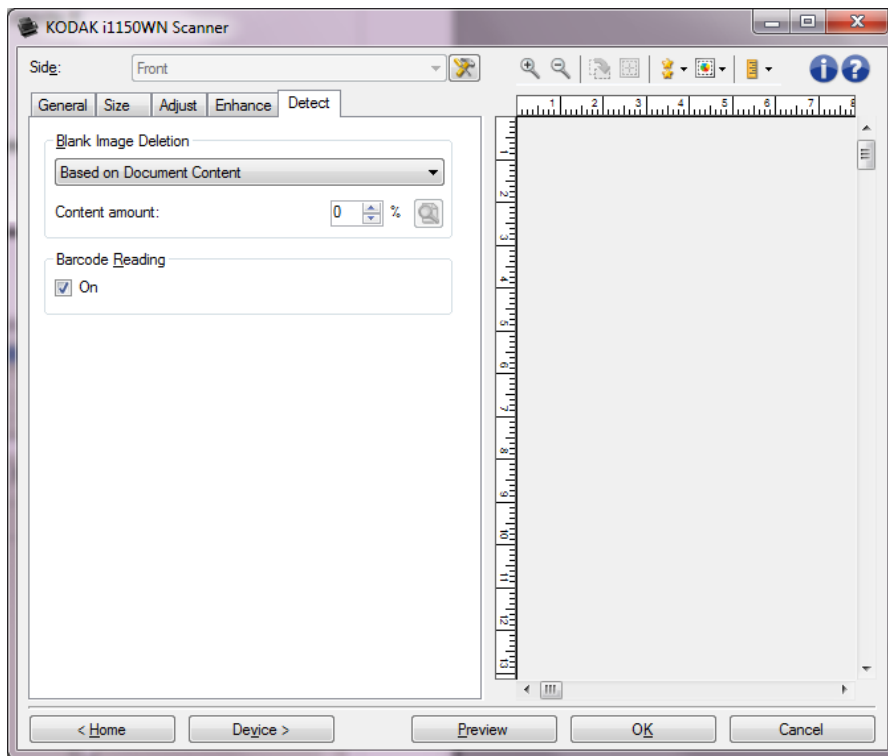
- ・ **(なし)**
- ・ **マルチ**：濃い色合い（黒や濃紺のインクなど）以外の色をドロップアウトします。
- ・ **主色**：主色をドロップアウトします。
- ・ **青**：青色をドロップアウトします。
- ・ **緑**：緑色をドロップアウトします。
- ・ **赤**：赤色をドロップアウトします。
- ・ **強度**：強弱を調整してドロップアウトします。値の範囲は **-10 ～ 10** です。デフォルトは 0 です。このオプションは、**[カラー]**が**[マルチ]**または**[主色]**に設定されている場合のみ使用できます。

注：**[カラードロップアウト]**オプションは、**[スキャン形式]**から**[白黒]**が選択されている場合のみ利用できます。



## [ 検出 ] タブ


[ 検出 ] タブには、以下のオプションがあります。



**白紙イメージ検出** — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)** : すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準** : イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。

- **文字量** : スキャナーが白紙であると判断する内容の情報量を設定します。この値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、0 ~ 100% です。

-  : [ 文字量基準 ] プレビューによってイメージの容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容を設定する際に参考になります（必要に応じて、プレビュースキャンの実行、このボタンのクリック、文字量の調整などを実行します）。

注 : このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：(すべてのイメージ処理を適用後) スキャンアプリケーションに送信する際にイメージのデータサイズに基づいて、白紙であるかどうかを判断します。

- **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小データサイズを選択します。データサイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ~ 1000 KB (1 KB は 1024 バイト) です。

**バーコード** — スキャナーがイメージからバーコードを検索するように設定します。スキャナーは各イメージから最初に発見したバーコードを解読してスキャンアプリケーションに情報を送ります。

以下のバーコードが検出できます。

Interleaved 2 of 5

Code 3 of 9

Code 128

Codabar

UPC-A

UPC-E

EAN-13

EAN-8

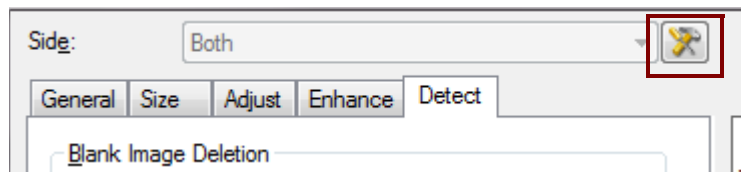
PDF417

- **[ オン ]**：バーコード検出をオンにします。

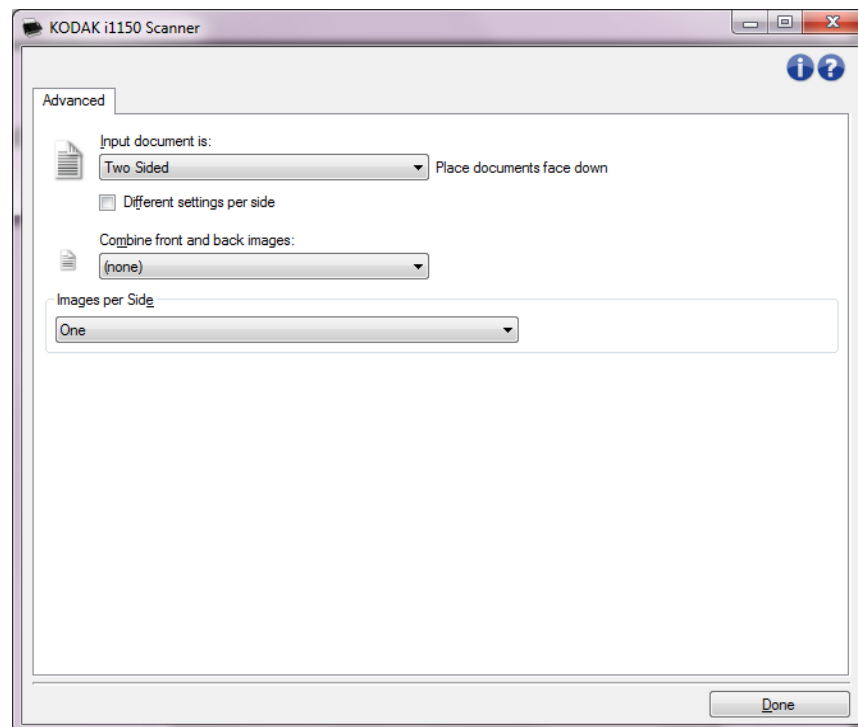
## イメージの詳細設定

### [ 詳細 ] タブ

[ イメージの詳細設定 ] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、[ 読取り面 ] ドロップダウンボックスの隣にあります。



[イメージの詳細設定]アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。



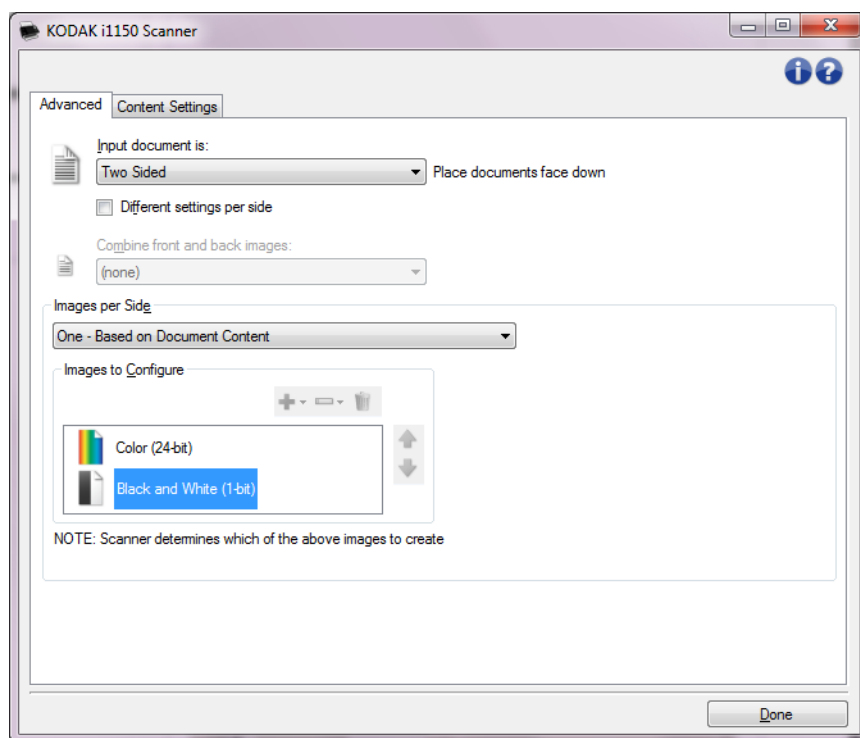
**入カドキュメントのタイプ** — 設定する読取り面に応じて [両面]、[片面 - 表]、[片面 - 裏] を選択します。

注：[両面]と[片面 - 裏]オプションは、両面对応スキャナーモデルのみ利用できます。

**読み取り面ごとに設定を変える** — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿の各読取り面に異なるイメージ処理設定を適用する場合、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず [入カドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから [両面] オプションを選択し、次に [読み取り面ごとに設定を変える] のチェックボックスを選択します。

この操作を行うと、[ イメージ設定 ] ウィンドウにある [ 読取り面 ] ドロップダウンリストが有効になり、読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[ 読取り面ごとに設定を変える ] を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象原稿の表面に適用されます。表面に関する設定が完了したら、[ 読取り面 ] ドロップダウンリストから裏面を選択し、裏面に適用する設定をします。

注：[ 読み取り面ごとに設定を変える ] オプションは、両面对応スキャナーモデルのみ有効です。



**表面と裏面画像の結合** — 通常では 1 枚の原稿につき、表面と裏面で個別のイメージが生成されます。表面と裏面のイメージを 1 つに結合する場合、このオプションを有効にします。以下のいずれかを選択します。

表面

表面

裏面

表面

**表面を上：**表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。

**表面を下：**裏面のイメージが表面のイメージの上に配置されます。

表面

裏面

裏面

表面

**表面を左：**表面のイメージが裏面のイメージの左に配置されます。

**表面を右：**表面のイメージを裏面の右に配置します。

注：

- このオプションは両面モデルのみ使用できます。
- このオプションは、[入力ドキュメントのタイプ]を[両面]に設定し、[読み取り面ごとに設定を変える]を選択せず、[読み取り面あたりのイメージ数]を[1]に設定して、ドキュメントフィードからスキャンを実行した場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

**読み取り面あたりのイメージ数** — 選択したイメージ処理に基づいて、読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1**：1種類のイメージを生成します。
- **1 - 自動カラー検知**：原稿内容を自動判別してカラーと白黒スキャンを切替えます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。
- **マルチ**：複数イメージが作成されます。

注：[読み取り面あたりのイメージ数]オプションから[1 - 自動カラー検知]を選択すると、[原稿内容の設定]タブが表示されます。

**設定するイメージ** — 設定するイメージを示します。

注：[読み取り面あたりのイメージ数]オプションから[1]以外の項目を選択している場合、このオプションが使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- **例 1**：原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え
- **例 2**：原稿の各面に対して複数イメージを作成
- **例 3**：両面にそれぞれ異なる設定を使用

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上下の矢印で選択します。

## [ツールバー] ボタン



**追加**：設定リストの一番下にイメージを追加します。



**変更**：現在選択されているイメージの種類を変更します。

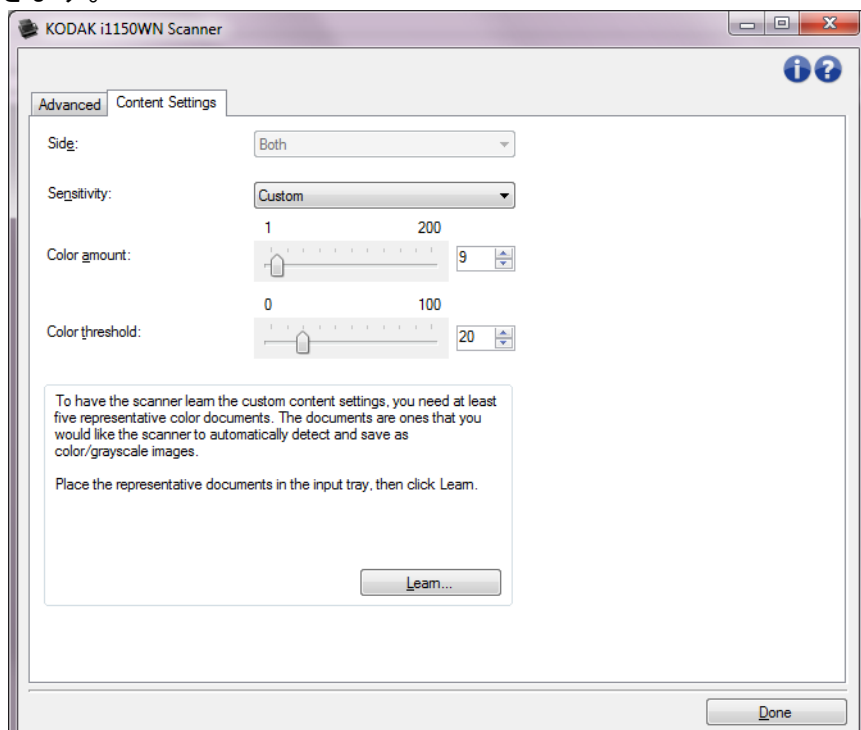


**削除**：選択したイメージの種類を削除します。

**完了** — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

## [ 原稿内容の設定 ] タブ

[ 原稿内容の設定 ] タブのオプションは、片面または両面ジョブに使用できます。



**読取り面** — [ 感度 ] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[ 詳細 ] タブで [ 読取り面ごとに設定を変える ] が選択されている場合のみ使用できます。

### 感度

- (なし)
- **低** : カラー / グレースケールイメージとして保存する際に、原稿の色量が僅かな場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカや写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中** : カラー / グレースケールイメージとして保存する前に、[ 低 ] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高** : カラー / グレースケールイメージとして保存する前に、[ 中 ] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[ カラーレスシヨルド ] や [ 色量 ] の調整が必要になる場合があります。

- ・ **カスタム**：マニュアルで [色量] や [カラーズレッシュョルド] の値を調整できます。

注：[感度] の値を設定する場合は、まず [中] オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー / グレースケールとして返された場合は、[高] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー / グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、[低] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。どのオプションも希望する結果が得られない場合は、[カスタム] を選択して [色量] や [カラーズレッシュョルド] を調整してください。[カスタム] を選択した場合、[自動設定] モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨の設定値を算出させることもできます。

**色量** — 原稿をカラー / グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。[色量] の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **1 ~ 200** です。

**カラーズレッシュョルド** — 色量の算出時に特定の色量を決定するカラーズレッシュョルドや彩度（水色と紺色の対比など）。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効値は **0 ~ 100** です。

**自動設定** — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。[自動設定] を選択する前に、入カトレイに 5 枚以上のカラー原稿をセットしてください。原稿をスキャン、分析して推奨の [色量] を決定します。

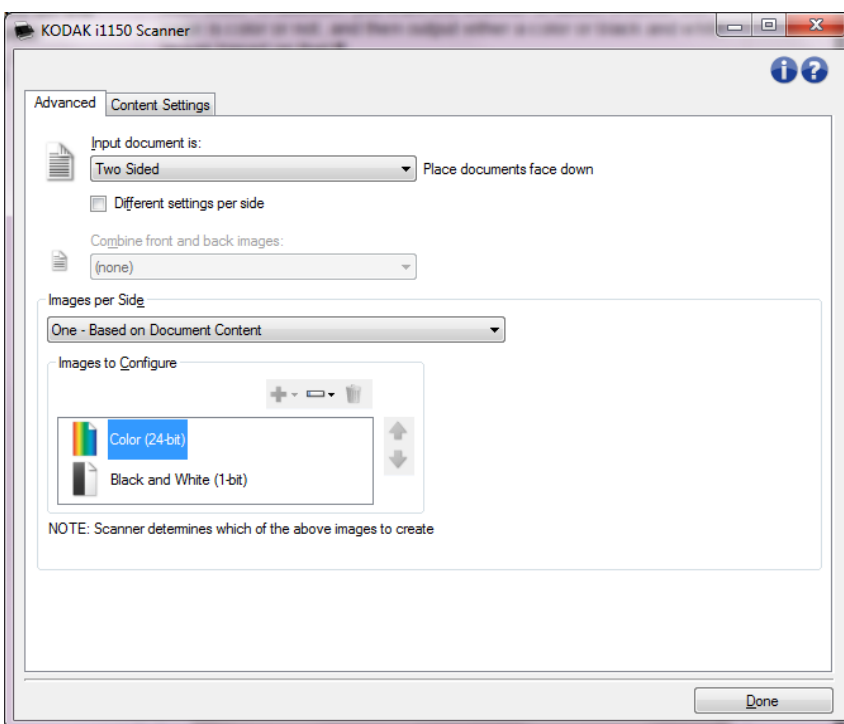
計算に応じて [色量] と [カラーズレッシュョルド] の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、[カラーズレッシュョルド] の値を調整してください。

### 例 1：原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え

この例では、両面のカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づいてカラーまたは白黒イメージを出力します。

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入力ドキュメントのタイプ]** から **[両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数]** から **1 - 色量基準** を選択します。

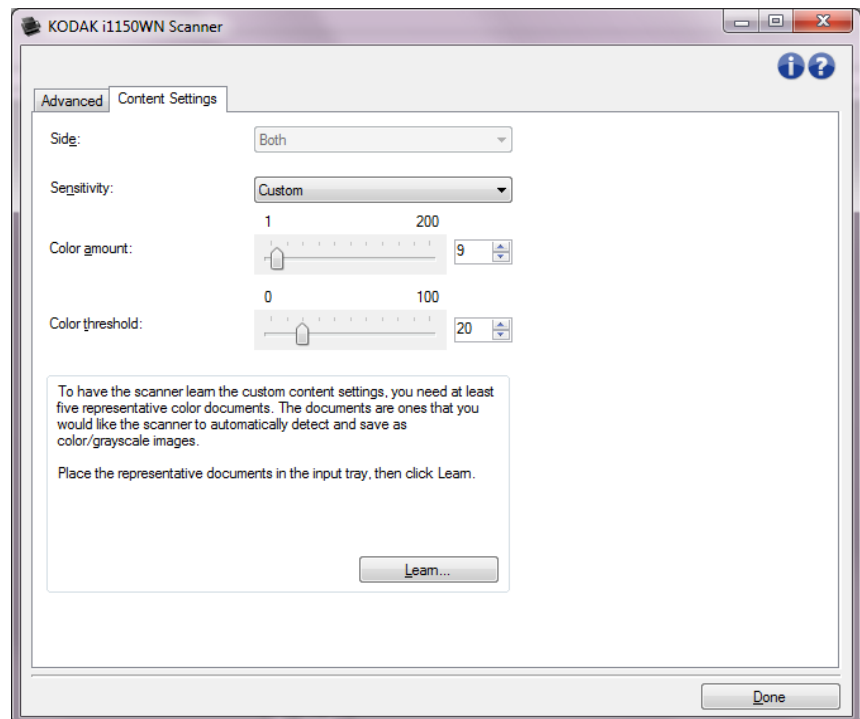
注： **[詳細]** タブに **[設定するイメージ]** エリアが表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目が選択できます。**[原稿内容の設定]** タブも表示されます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、以下の処理を行います。
  - **[カラー (24 ビット)]** を選択します。
  - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
  - **[グレースケール]** を選択します。



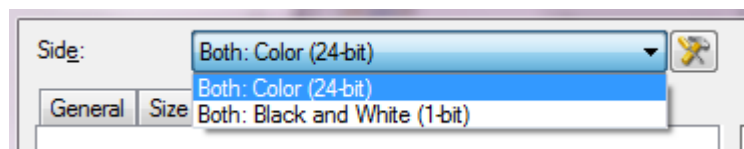
7. **【原稿内容の設定】** タブに移動します。



8. **【感度】** オプションを選択します。

9. **【完了】** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注： **【読取り面】** オプションには、**【両面：白黒（1ビット）】** と **【両面：カラー（24ビット）】** があります。



10. **【読取り面】** から **【両面：カラー（24ビット）】** を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウの各タブにあるカラーイメージの設定項目を調整します。

11. **【読取り面】** から **【両面：白黒（1ビット）】** を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウの各タブにある白黒イメージの設定項目を調整します。

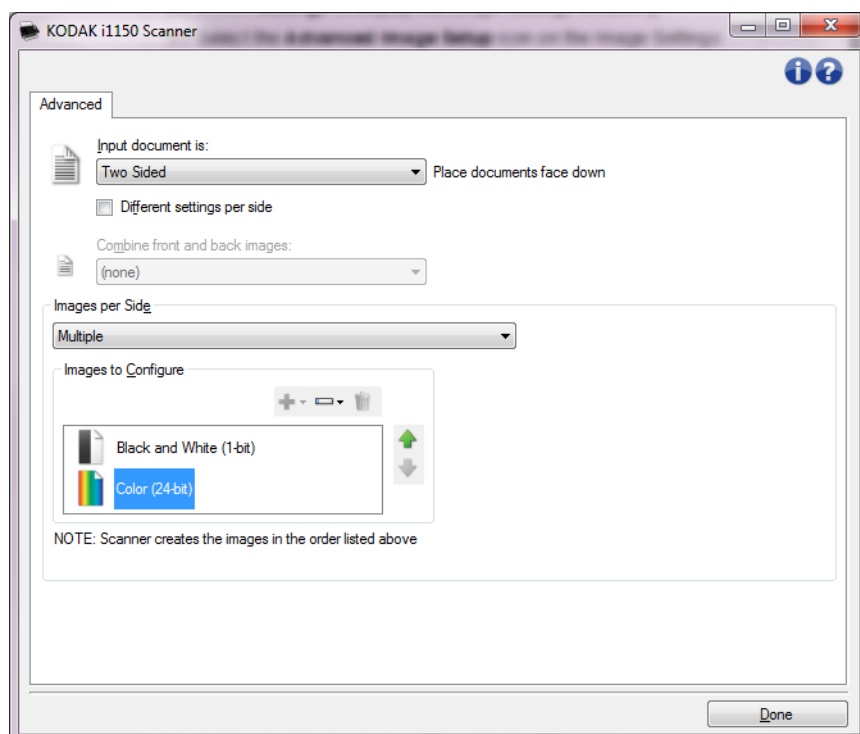
12. 設定が完了したら、**【ホーム】** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**【保存】** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

## 例 2：原稿の各面に対して 複数イメージを作成

この例では、両面原稿のスキャンを想定し、原稿の各読取り面毎にカラーと白黒イメージを出力します。

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入力ドキュメントのタイプ]** から **[両面]** を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数]** から **[マルチ]** を選択します。

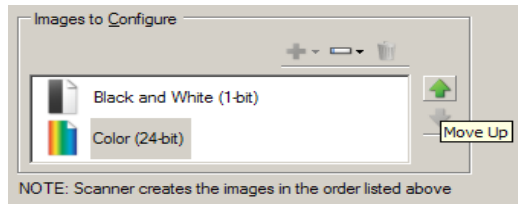
注： **[詳細]** タブに **[設定するイメージ]** エリアが表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目が選択できます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、以下の処理を行います。
  - **[カラー (24 ビット)]** を選択します。
  - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
  - **[グレースケール]** を選択します。

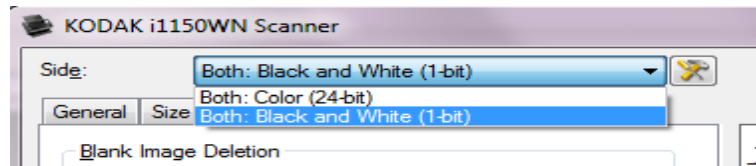
7. デフォルトでは、1 番目にリストされたイメージ（この例では白黒）がスキャンアプリケーションに出力され、次に 2 番目にリストされたイメージ（この例ではカラー／グレースケール）が出力されます。カラー／グレースケールイメージを先に出力したい場合、以下の手順に従います。

- [ カラー (24 ビット) ] を選択します。
- [ 上に移動 ] を選択して、カラー／グレースケールイメージをリストの上にセットします。



8. [ 完了 ] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[ 読取り面 ] オプションには、[ 両面：カラー (24 ビット) ]、と [ 両面：白黒 (1 ビット) ] があります。



9. [ 読取り面 ] から [ 両面：カラー (24 ビット) ] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウの各タブにあるカラーイメージの設定項目を調整します。

10. [ 読取り面 ] から [ 両面：白黒 (1 ビット) ] の場合でのみ使用できます。

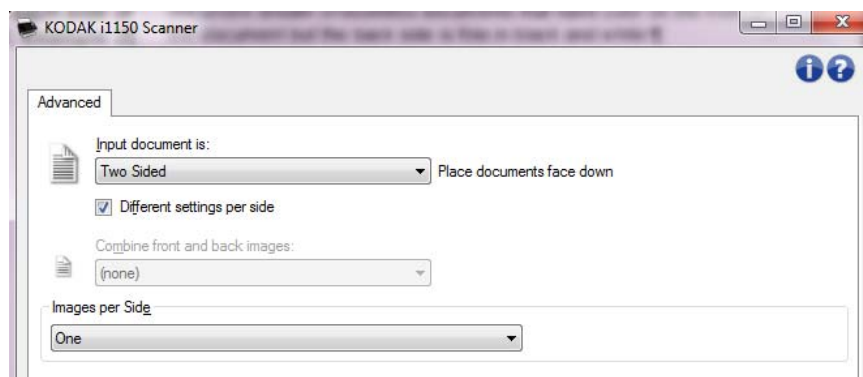
注：イメージ設定ウィンドウの各タブにある白黒イメージの設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、[ ホーム ] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[ 保存 ] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

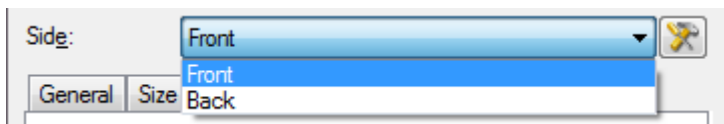
### 例 3：両面にそれぞれ異なる設定を使用

この例では、表面カラー、裏面白黒で原稿をスキャンする設定を行います。  
注：このオプションは両面スキャナーのみ使用できます。

1. [詳細] タブを開いていない場合、以下の手順で設定します。
  - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
  - [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
  - イメージ設定ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入力ドキュメントのタイプ] から [両面] を選択します。
3. [読み取り面ごとに設定を変える] オプションを選択します。
4. [読み取り面あたりのイメージ数] から [1] を選択します。



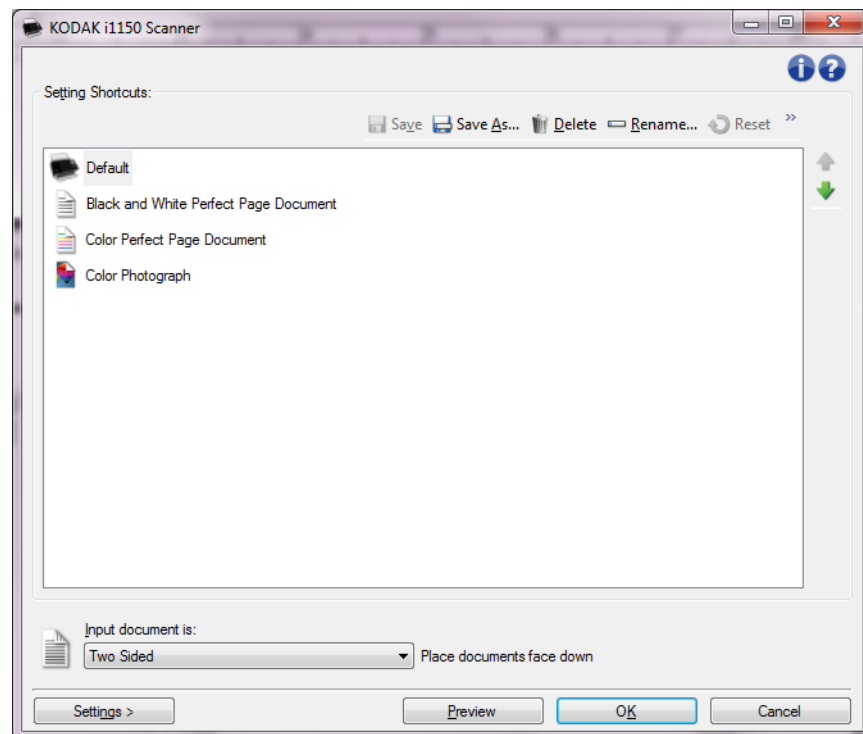
5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。  
注：[読み取り面] オプションには、[表面] と [裏面] があります。



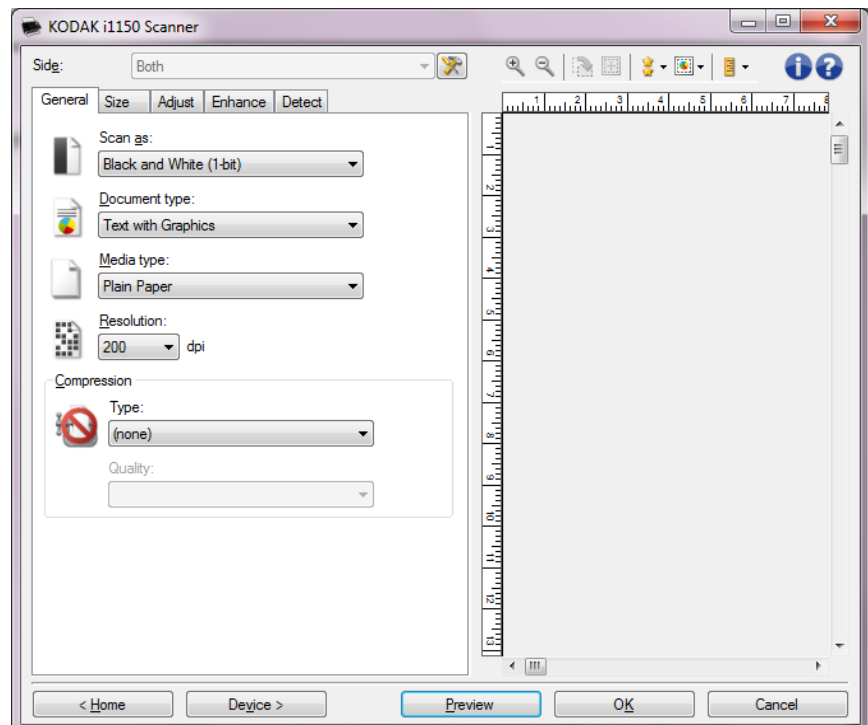
6. [読み取り面] から [表面] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン形式] オプションから、[カラー (24 ビット)] を選択します。  
注：イメージ設定ウィンドウの各タブにある表面の設定項目を調整します。
8. [読み取り面] から [裏面] を選択します。
9. [一般] タブの [スキャン形式] オプションから、[白黒 (1 bit)] を選択します。  
注：イメージ設定ウィンドウの各タブにある裏面の設定項目を調整します。
10. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

## 新しい設定のショートカットの作成

1. スキャナーメインウィンドウのリストから、[設定のショートカット]を選択します。目的のイメージ出力に最適なショートカットを選択します。



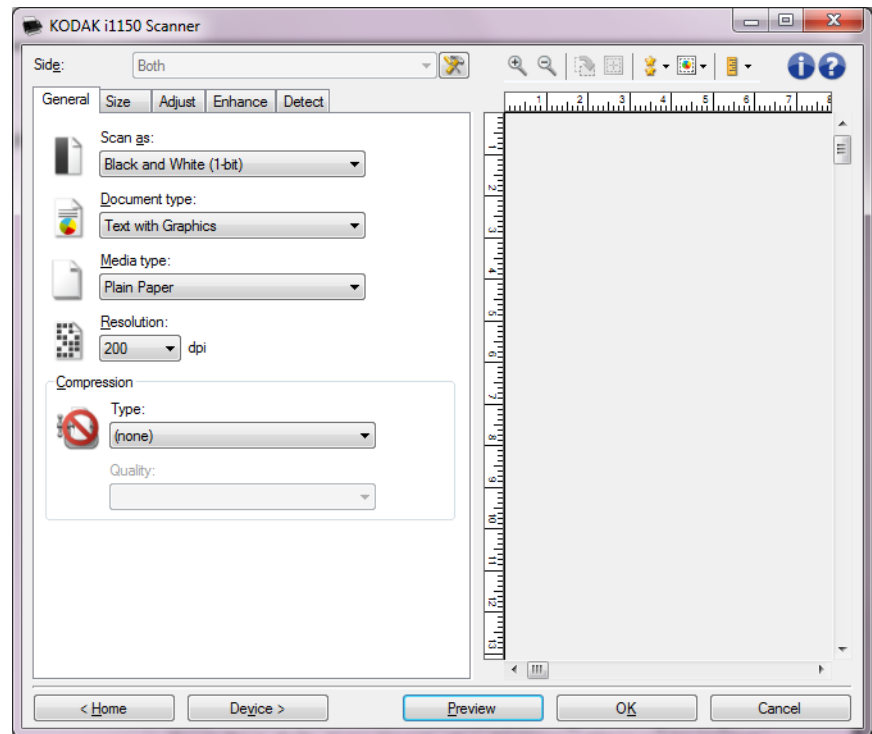
2. [入カドキュメントのタイプ]から、表面、裏面、両面のいずれかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウから[設定]を選択します。イメージ設定ウィンドウの[一般]タブが表示されます。



4. [ 一般 ] タブから適切なオプションを選択します。  
注：必要な場合は、各タブの設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入カトレイに原稿を 1 枚セットします。
6. スキャン結果を確認する場合は、[ プレビュー ] をクリックします。  
注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの各タブで設定内容を更に調整します。
7. イメージ設定ウィンドウの [ デバイス ] を選択して目的のデバイス設定を定義します。
8. 各タブから実行するオプションやアクションを選択します。
9. [ ホーム ] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. [ 名前を付けて保存 ] を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。
11. 判別しやすい新規ショートカット名を入力して、[ 保存 ] を選択します。

## イメージ 設定の変更

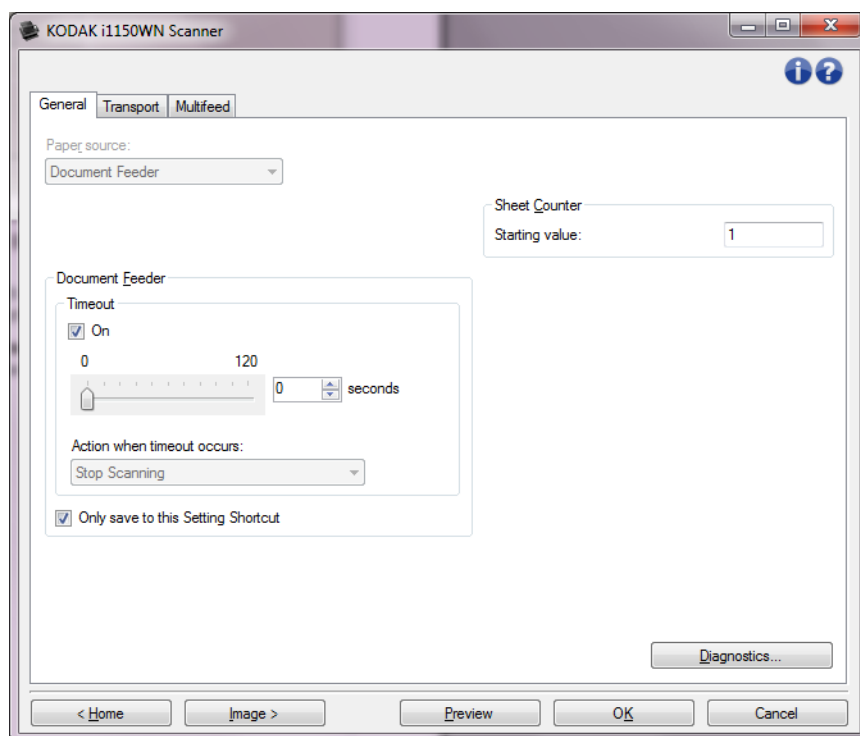
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力に最も近い内容の [ 設定のショートカット ] を選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、[ 入カドキュメントのタイプ ] を選択します。
3. [ 設定 ] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。



4. 調整を行う前に、イメージ設定ウィンドウのタブから、利用可能なオプションを確認します。
  5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
  6. オプションの結果を確認する場合は：
    - スキャナーの入カトレイに原稿を 1 枚セットします。
    - [ プレビュー ] を選択して、プレビュースキャンを実行します。
- 注：
- 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを選択するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブの設定を確認します。この手順は必要に応じて繰り返してください。
  - 対話式に調整を行う場合は、プレビューで最高品質のイメージ表示を選択します。
7. 設定が完了したら、[ ホーム ] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[ 保存 ] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

## デバイス設定 ウィンドウ

利用可能なタブを使用して、スキャナー固有のオプションや診断機能を通じてこのウィンドウから設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [設定のショートカット] に保存されます。デバイス設定ウィンドウには、[一般]、[トランスポート] と [重送検知] タブがあります。



**ホーム** — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**イメージ** — [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

**注：** このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

### 情報アイコン



**バージョン情報**：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

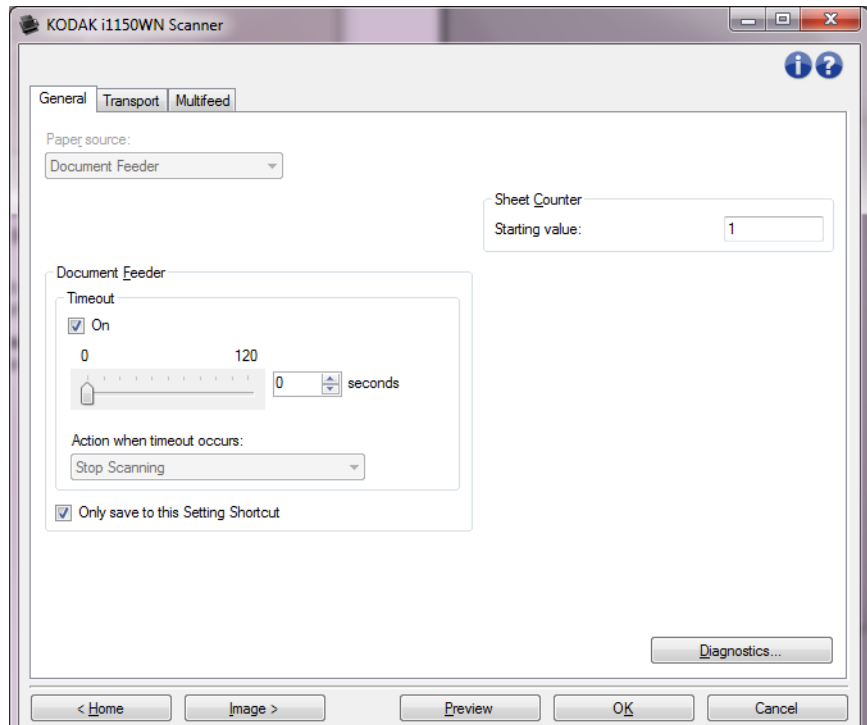


**ヘルプ**：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。



## デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナーのオプションを設定したり、スキャナー診断を実行します。



### スキャン方法

- **自動**：初めにドキュメントフィーダの原稿の有無を確認します。入力トレイに原稿がない場合は、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **ドキュメントフィーダ**：スキャナーは入力トレイから原稿をスキャンします。
- **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注：

- **[自動] および [フラットベッド]** オプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。
- フラットベッドアクセサリはKodak i1150WNおよびi1190WNスキャナーでは使用できません。

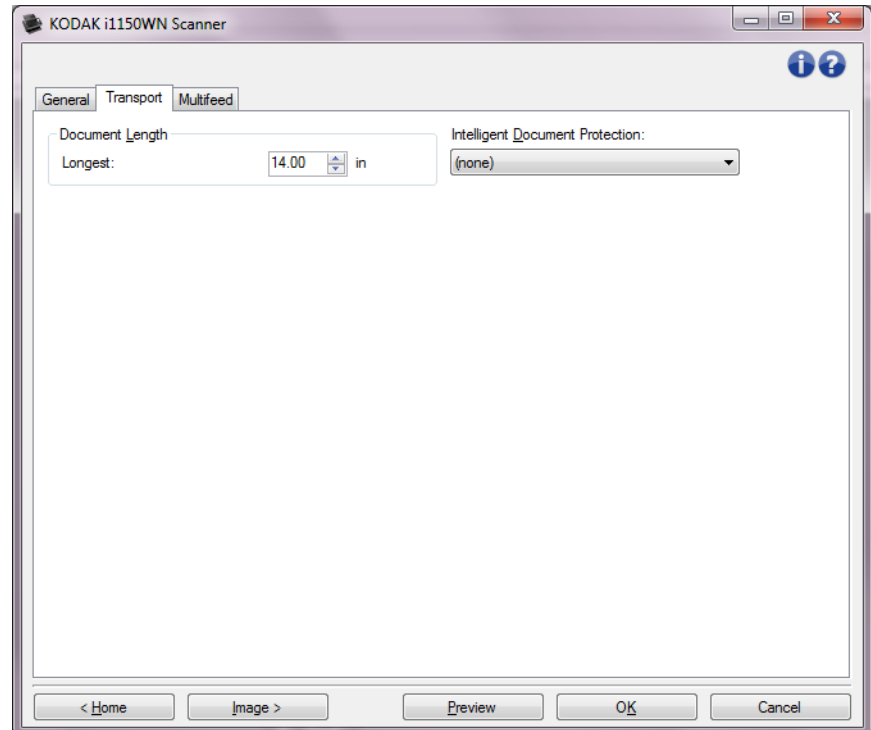
### ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてからタイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を設定できます。
- **タイムアウト時のアクション**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになった時に実行するアクションを指定できます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。

**用紙枚数カウンタ** — 次にスキャンされる原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーにより順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

**診断** — [診断] タブが表示されます。

デバイス - [トランスポート] タブ [トランスポート] タブで、スキャナーのトランスポートエリアによる原稿の管理方法に対するオプションを設定できます。



#### 原稿長

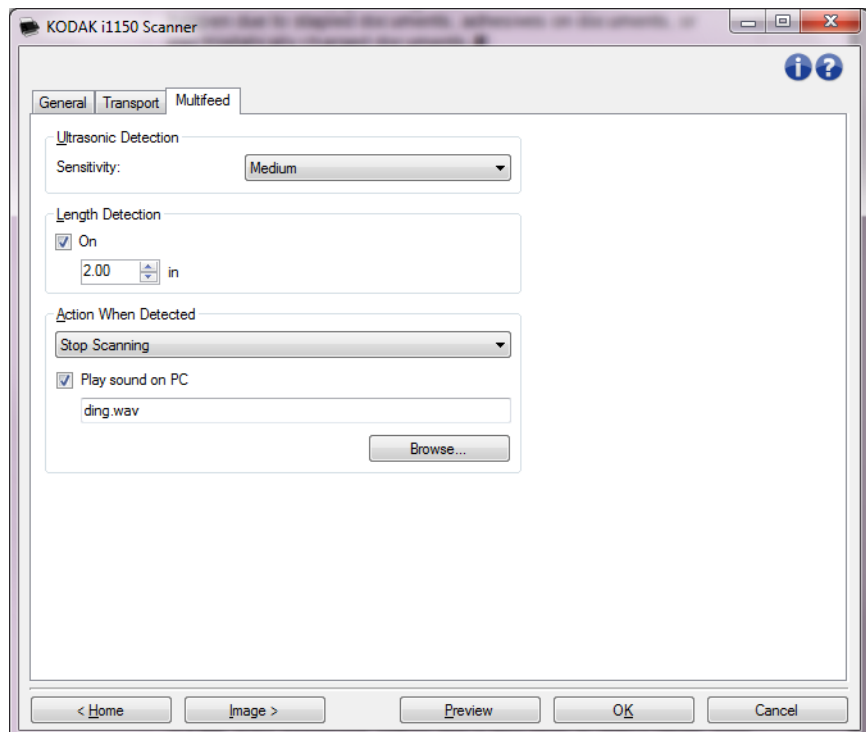
- **最長** — 原稿セット内で最長の原稿の長さを示す値を選択します。

注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。イメージサイズ- アウトライン、重送- 長さ検知。
- [スキャン方法]と[解像度]の設定の組み合わせによっては、原稿の長さが制限される場合があります。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長い原稿の場合、スキャナーの処理速度が減少することがあります。
- **インテリジェントな原稿の保護** — スキャナーに正しく入っていない原稿を、スキャナーがどの程度積極的に検出するかを選択できます。これは、スキャンする際に、原稿の準備がきちんと整っていない場合に発生します（ホチキス止めやクリップされたままの原稿など）。
  - (なし)
  - **最小**：給紙不良を必要以上に検出することでスキャナー停止の頻度が多い場合、このオプションを選択します。  
注：検出しないと、原稿はさらに損傷する場合があります。
  - **標準**：これは推奨するオプションであり、ドキュメントの損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないことの双方でバランスを取ります。
  - **最大**：極力原稿の損傷を防ぐ場合、このオプションを選択します。  
注：スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

## デバイス - [ 重送検知 ] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はホチキスで綴じられた原稿、粘や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



### 超音波検知

**感度** — 原稿が重なった状態を検知する度合いを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することで、重送原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在している場合でも、重送を検知できます。

#### • (なし)

- **低**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送と認識する可能性が最も低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にも拠りますが、殆どのラベルは重送と認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、原稿の厚さがすべて 20-lb. 以下のボンド紙の場合など、同じ厚さの原稿のスキャンに適しています。

注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

**長さによる検知** — ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーが指定の長さ以上の原稿を検知すると、重送が発生したと判断します。このオプションは無効にするか、長さを設定できます。

**検知時の動作** — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、重送の検知はスキャナーのログに記録されます。

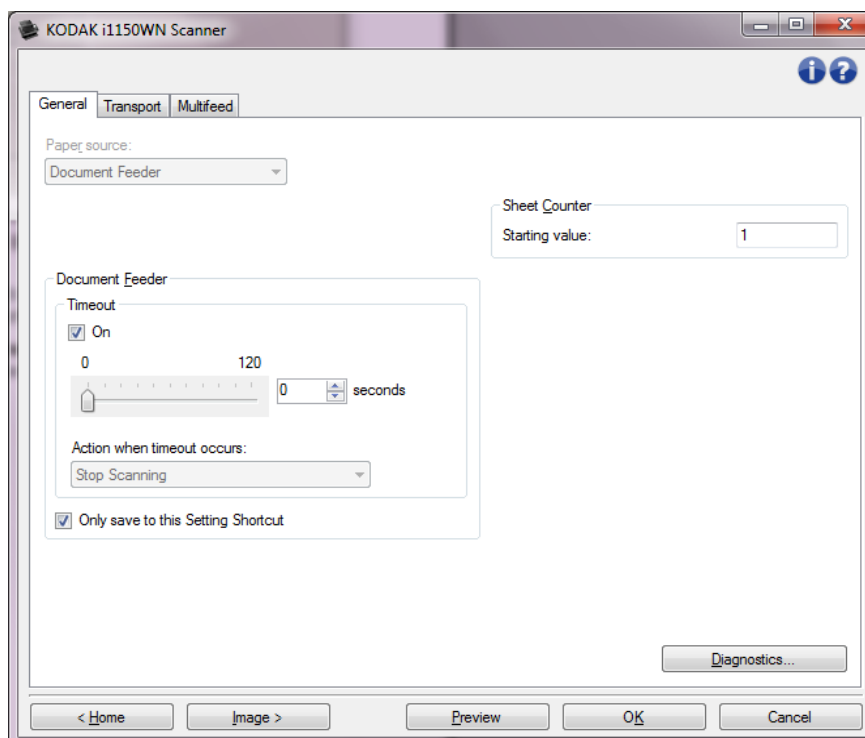
- **スキヤンの停止** : スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤン停止 - イメージ生成** : スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。重送原稿のイメージが生成されます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの停止 - 用紙を搬送部に残す** : スキヤンを直ちに停止し (搬送部から重送原稿が排出されません)、スキヤンアプリケーションに戻ります (ジョブを終了します)。搬送部から原稿を取り除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの続行** : スキャナーはスキヤンを継続します。

**PC の音源を鳴らす** — 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[参照]** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注 : PC の音源は、重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

## デバイス設定 の変更

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [ 設定のショートカット ] を選択します。
2. [ 設定 ] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. [ デバイス ] を選択すると、デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブを選択して、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 設定が完了したら、[ ホーム ] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[ 保存 ] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

## [ 診断 ] ウィンドウ

このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます。[ 診断 ] ウィンドウには [ 一般 ]、[ デバッグ ]、[ ログ ] のタブがあります。[ 診断 ] ウィンドウは、デバイス設定ウィンドウの [ 一般 ] タブにある [ 診断 ] ボタンからアクセスできます。

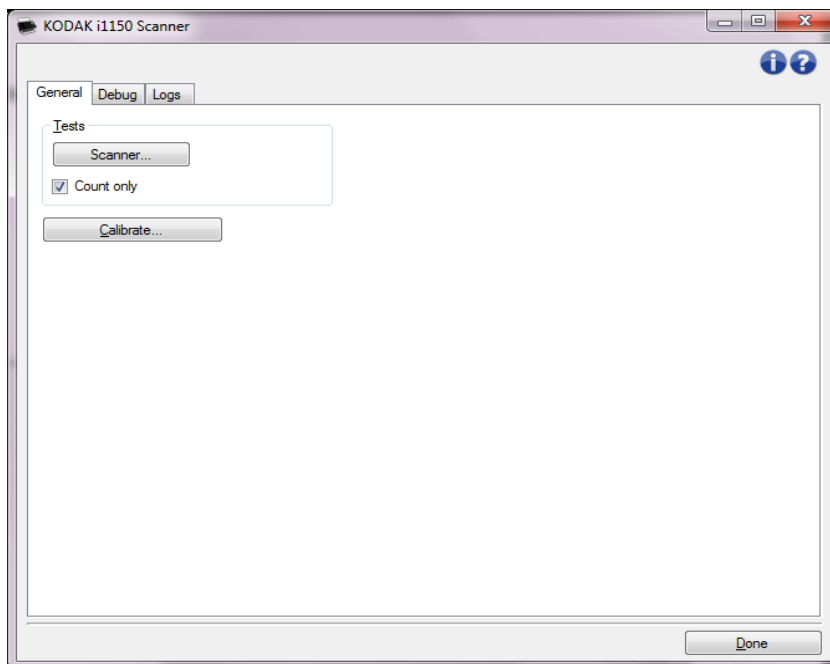
**デバイス** — 診断を実行するデバイスを選択します。オプションとして、[ ドキュメントフィーダ ] または [ フラットベッド ] が選択できます。

**注** : このオプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。

**完了** — [ デバイス設定 ] ウィンドウに戻ります。

### 診断 - [ 一般 ] タブ

[ 一般 ] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナーのキャリブレーションを行います。



### テスト

- **スキャナー** — 電源投入時のセルフテストと似ていますが、より詳細なテストを行います。このボタンをクリックすると、一連のデバイスチェックが行われ、スキャナーのハードウェアがすべて正常に動作しているかどうか確認します。
- **カウントオンリー** — スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに給紙される原稿の枚数を数えます。オプション有効時のスキャンセッションでテストが実行できます。

**注** : スキャンアプリケーションがスキャナーの接続から切れると、テストは自動的に終了します。

**キャリブレーション** — [ キャリブレーション ] ウィンドウを表示します。

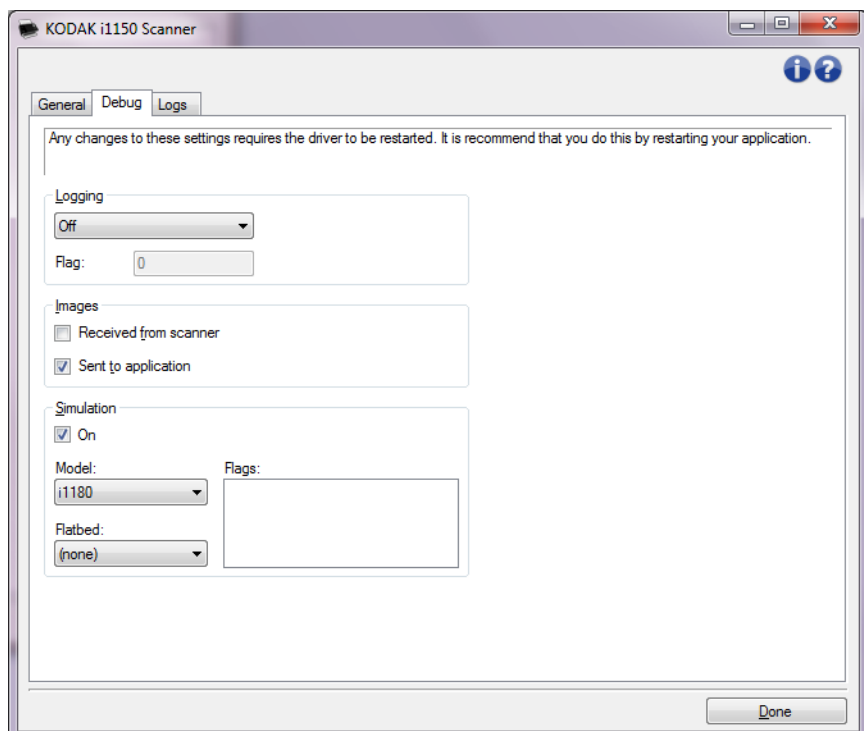
**注** : キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、またお勧めもしません。サポート担当者の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

## 診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題の診断に役立つオプションが使用できます。このタブは、Kodak Alaris のサービス担当から指示がある場合のみ使用してください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用され、即座に保存されます。
- このタブで行った変更を有効にする場合は、アプリケーションを再起動する必要があります。



**ログ** — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションには [OFF]、[ON]、[カスタム] があります。

**イメージ - スキャナーから受信** — スキャナーから PC へ受け取ったイメージを保存します。

**イメージ - アプリケーションに送信** — スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。

**シミュレーション** — 実際にスキャナーを使わずに TWAIN データソースを使用することができます。

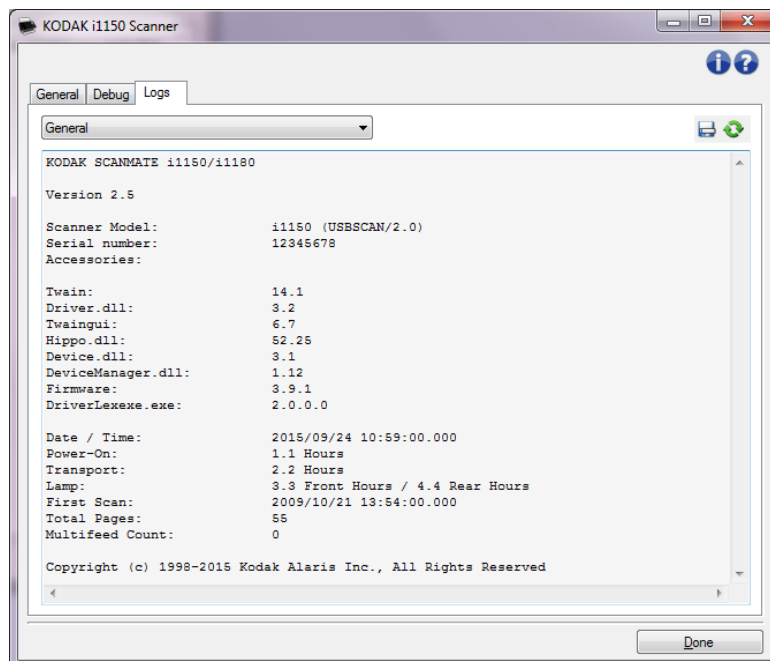
- **モデル**：特定のモデルを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：TWAIN ドライバ/データソースでサポートされている場合は、シミュレーションスキャナーにインストールされているアクセサリがリストにあります。

## 診断 - [ ログ ] タブ

[ ログ ] タブでスキャナー情報を確認できます。

### ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストールされたアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはサポート担当者のみ消去できます。



### [ ツールバー ] ボタン




**名前を付けて保存**：サポート担当者が閲覧できるようにすべてのログを保存します。選択すると [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する際の問題 / 原因などの簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：[ ファイルを開く ] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。



**更新**：現在表示されているログを更新します。





Kodak Alaris Inc.  
2400 Mount Read Blvd.  
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.  
All rights reserved.

コダックの商標およびトレード  
レスはイーストマンコダック社の  
許可を受けて使用しています。